

NO33 農業・林業・漁業・手工業・特産品

再度、農具を確認。あとは特産品。

一地一作人の原則を確立するには十分な耕地が必要。そうでないと小農は名主層の元から独立することができない。幕府は小農民自立政策として新田開発を奨励した。

18世紀初期は大開発の時代。また、土木技術の進歩により、大河流域や海岸の埋め立てによる新田開発が可能となった。

16世紀末→160万町歩から 18世紀初め→300万町歩

農具の改良

POINT

①【**備中鍬**】田畑の荒起こし・深耕用の鍬

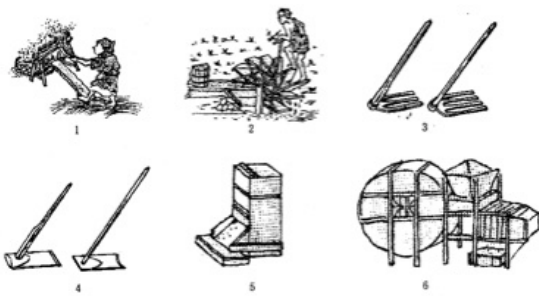
②【**踏車**】揚水・排水に用いる小型の水車

③【**千歯扱**】脱穀用の農具 これは夫を失った後家さんの小遣い稼ぎだった。

元禄の頃に**千歯扱**が登場。扱箸の2～3倍の能率で、これによって後家の小遣い稼ぎができなくなって後家倒しと言われた。

④【**唐箕**】穀粒と不純物を風力でふるいわけする選別用の農具。

⑤【**千石筥**】穀粒の大小を選別する農具



NO264 近世の特産品と産地 2014本

近世の特産品と産地について述べた次の文XYと、地図中に示した場所adの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

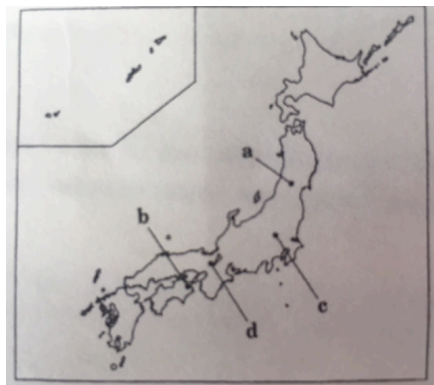
X この地方は、紅花の代表的な産地として発展した。

Y この地では、西陣織など高度な技術にもとづく織物が生産された。

① X-a Y-c ② X-a Y-d

③ X-b Y-c ④ X-b Y-d

正解→紅花は庄内地方、現在の山形県だから→a。西陣織は京都だからd。正解→②



NO265 各地の特産物 2006本試

近世後期に出版された『日本山海名産図絵』は、各地の特産物を紹介した書物である。この書物には例えば、(ア)の酒が広い地域に売られた結果、産地名である(ア)という言葉が高級酒の代名詞として知られるようになった、という

記載がある。

特産物の産地では、その価格や販路に対する関心が高まった。その結果、木綿や菜種の流通独占に反対して、摂津・河内・和泉の1000か村を越す村々が結集した(イ)とよばれる大規模な訴願運動が起こった。

空欄(ア)(イ)に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

① ア 伊丹 イ 越訴 ② ア 伊丹 イ 国訴

③ ア 野田 イ 越訴 ④ ア 野田 イ 国訴

正解→国訴と越訴の区別ができたか。越訴は正式な手続きを踏まず、上級の役所などに直接



訴えることです。国訴の記述は山川の教科書にない。正解→①

NO266 近世の産業

近世の産業について述べた次の文X・Yと、その産物a～dとの組合せとして正しいものを、下から一つ選べ。

X 九十九里浜で地引(曳)網により捕獲されて、綿作などの肥料に加工された。

Y 阿波国(徳島県)でさかんに栽培されて、木綿などの染料に加工された。

a. 鯨 b. 鯛 c. 藍 d. 樫

1. X-a Y-c 2. X-a Y-d 3. X-b Y-c 4. X-b Y-d

正解→3

江戸時代の越後のことについて

確認事項

商品作物は、商品として売るために栽培された農作物で、四木三草、綿花(木綿)・たばこ、野菜・甘蔗などが主なものである。四木三草は幕府や諸藩が重視した民間必需の商品作物で、四木が**桑・漆・茶・楮**、三草が**麻・藍・紅花**である。桑・楮・麻は全国的に栽培され、漆は会津、茶は山城や駿河、藍は**阿波**、紅花は**出羽**が特に生産が多かった。また、各地に特産品も登場した。**備後**の藺草、甲斐のぶどう、紀伊のみかん、薩摩の**黒砂糖**、越前の奉書紙などである。

特産品

場所	特産品	場所	特産品
薩摩	黒砂糖	木曾	檜
駿河・宇治	茶	秋田・吉野・熊野	杉
備後	藺草	九十九里	鯛
京都	西陣織	紀伊・土佐	鯨

野田	醤油	奈良	晒
京都・桐生・足利	絹	尾張・河内・小倉	木綿

製紙 美濃紙、難関レベル→鳥子紙 (越前)

金肥の利用と農書の出現

新田が開かれたことで山野が減少し、自給肥料に替わって購入肥料の使用は絶対なものになる。

POINT

①【干鰯】鰯を煮て干したもので煮干しである。商品作物 栽培の拡大とともに干鰯の使用が本格化し、地引網漁などが定着した房総半島の九十九里浜（鰯漁）は、その中心的な生産地となった。さらに18世紀末ごろから、蝦夷地（鯨漁）でも魚肥製造が開始され、西廻り海運ルートを利用して各地に供給された。速効性肥料であり、効果は大きい、大量に施肥できるのは金持ちだけだった。

②【油粕】油菜や綿の種などから油を絞った残り。

③【農書の出現】

江戸前期＝「農業全書」（宮崎安貞）、江戸後期「広益国産考」（大蔵永常）
五穀の栽培が中心。金費をたくさん使えばよくとれるが、それでは赤字になるとし、施肥よりも耕耘や除草の技術を中心に記述している。

NO267 近世の庶民生活 2014本試

近世の庶民生活にかかわる諸産業に関して述べた文として正しいものを、次の(1)～(4)のうちから一つ選べ。

- (1) 九十九里浜では鯨漁、土佐では鰯漁などがさかんに行われた。
- (2) 瀬戸内海沿岸を中心に、入浜式塩田(入浜塩田)が発達した。
- (3) 刈藪や草木灰が、金肥として普及した。
- (4) 灘の醤油、阿波の紅花などの特産品が全国各地に生まれた。

正解→鯨は蝦夷地、鰯が九十九里で(1)は✖、刈藪・草木灰は中世で(3)は✖、醤油は野田と調子、阿波は藍の産地で(4)も✖、正解→(2)

NO268 諸藩の政策 2006 本試

次の史料は、大蔵永常『広益国産考』の一節である。

情 {つらつら} 国産の事を考ふるに、c : 国に其 {その} 品なくして他国より求むるをふせぎ、多く作りて他国へ出し其価を我国へ取入れ、民を潤し国を賑 {にぎわ} す事肝要ならんかし。扱 {さて}、昔より今に冠たる産物は、d : 薩摩の砂糖、中国・土佐の紙、九州の蠟 {ろう}、[e : 畿内の綿]、出羽の紅花 {べにばな}、越後縮 {ちぢみ}、奈良晒 {さらし}、京都の織ものは云 {い} ふも更なり、(後略)

問1 下線部cと同様の意図をもって実施された諸藩の政策について述べた文として正しいものを、次から一つ選べ。

1. 特産物の生産を奨励し、専売制を実施した。
2. 綿花や菜種などの商品作物の栽培を制限した。
3. 城下町を建設し、商工業者を集住させた。

4. 百姓が他国に出稼ぎに行くことを制限した。

正解→1

NO269 江戸時代の薩摩藩

問2 下線部dに関連して、江戸時代の薩摩藩に関して述べた次の文X～Zについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下から一つ選べ。

- X 奄美三島(奄美諸島)を支配して、砂糖を生産させた。
- Y 琉球を通じて中国との密貿易を行い、利益を得た。
- Z 生麦事件の報復にきたフランス艦隊と交戦した。

1. X-正 Y-正 Z-誤
2. X-正 Y-誤 Z-誤
3. X-誤 Y-正 Z-正
4. X-誤 Y-誤 Z-正

正解→1 生麦事件はイギリスである。

4 製塩業・醸造業

POINT

①【製塩業】日本では古くから海水を利用して塩が生産されてきた。塩田には、(a)海水を塩田地盤の砂に人力でかけて太陽熱と風で水分を蒸発させる自然浜(揚浜)と、(b)潮の干満差を利用して塩田に海水を引き入れる入浜という二つの方法があり、江戸時代になると、(b)の

入浜塩田が瀬戸内海沿岸部などで発達した。

右記の写真は伯方島の塩ラーメン美味い！

広島県伯方島

②【醸造業】江戸・大阪・京都周辺では、醸造業が発展した。伏見・灘の酒、近畿に加え、関東の野田・銚子の醤油などが知られている。

